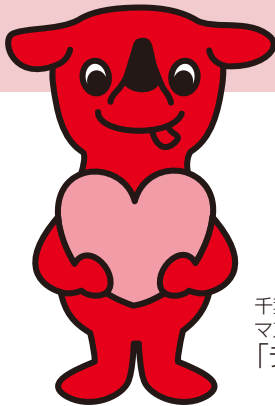




● 表彰事例の紹介 ●

県内には、福祉や環境、子育て、まちづくりなどのさまざまな分野で、市民活動団体が地縁団体、企業や学校、行政機関等と連携して地域の課題解決に取り組むことで、成果を上げている事例がたくさんあります。県では、そのような連携事例の中から、他のモデルとなるような優れた事例を「ちばコラボ大賞(千葉県知事賞)」として表彰しています。第6回目となる平成28年度は、県内各地から8件の応募があり、審査の結果、3件を表彰事例に決定しましたので御紹介します。



千葉県
マスコットキャラクター
「チーバくん」

表彰式

表彰式では、鎌田審査委員長に講評をいただいた後、吉添環境生活部長から表彰事例の代表者に賞状が贈られたほか、チーバくんも加わり記念撮影が行われました。

吉添部長からは、「立場の異なる方々が連携することにより、新しい発想や活力が生まれ、地域の課題解決に向けた大きな相乗効果を生み出します。皆様方の一層の御活躍を祈念しております。」とメッセージが贈られました。



審査委員長からの講評

「ちばコラボ大賞を受賞された皆様おめでとうございます。審査の際に重視したのは団体同士の連携度と、連携協働する上でのモデルとなる先駆性の2点を大きなポイントと考え、事例を選考いたしました。審査を通じて、応募団体の皆様方の真摯で熱心な取組に感動し、元気づけられました。今回の受賞をきっかけに、コラボ大賞を周りの方にも伝えていただき、お互いに切磋琢磨して千葉県にコラボの輪が広がっていくと良いと考えます。また、これからも地域社会の活性化と発展のために引き続き御活躍されることを祈念しております。」



第5回 いちはらパパママフェスタ

市原市

- ◆NPO法人いちはら子育て応援団 ◆いちはらパパママサポーターズ ◆市原市子育て支援部子ども福祉課
- ◆株式会社HeartY ◆学校法人三和学園福増幼稚園 ◆東海大学付属市原望洋高等学校ボランティア部

●子育てをするパパママのために

子育てをする親は、出産によるライフスタイルの大きな変化によって、社会との隔たりを感じ、“孤育て”になりがちになってしまいます。そのような中、市原市で、市民活動団体が中心となり、企業や幼稚園、高校生、行政等と連携して、子育て中のパパママたちを応援するイベント「いちはらパパママフェスタ」を開催しています。

●市原で子育てをするパパママが主役

いちはらパパママフェスタは子育て中の親を中心とした多くのボランティアスタッフの協力によって運営されています。フェスタの運営にあたっては、協力しているボランティアのパパママが楽しく参加できるように、子連れでの参加を可能としたり、それぞれのスタッフが個性やスキルを発揮できるように人員配置するなど、様々な工夫が取り入れられています。

子育て中の親が、企業や幅広い世代のボランティアと触れ合いながらイベントを行うことで、地域みんなで子育てをしていることを感じる事ができる取組になっています。パパママが主体となって、社会や地域に新たな繋がりを生み出し、地域の活性化に貢献している取組です。

<評価のポイント!>

みんなが楽しみながら、自分たちのできる範囲でできることをしている点や、企業が一緒に子育て支援をしている点が高く評価されました。



HIC(Happy International Communication)プロジェクト

- ◆NPO法人ちば子ども学研究会 ◆千葉大学教育学部藤川研究室
- ◆3H日本語学校

●人と関わる交流の場を目指して

地域みんなで子育てに関わることが必要とされていますが、子供たちが地域社会と接点を持つことは少なくなっています。また、地域において自分とは違う価値観、考え方を知る機会として多様な人と関わる交流の場が必要とされています。

そのような課題に対応するため、地域子育てを支援するNPOと大学、日本語学校が連携して、異世代・異文化交流の場を作る「HICプロジェクト」に取り組むこととなりました。

●異世代・異文化交流

この事業では大学生と日本語学校の留学生が交流するところから始まり、言葉や文化、考え方の違う両者が理解を深め合いながら、地域の小学生を対象にしたイベントを開催することを目標に活動が始まりました。授業内という限られた時間の中での準備となりましたが、NPOがアドバイスや連絡調整を行いながら、大学生と留学生が主体となって企画運営を行い、目標であるイベントを開催することができました。

平成27年に開催したイベント「アジアのあそびツアーに行こう」では、言葉の壁を越えて大学生、留学生それぞれが活躍できるイベントとなり、参加した小学生も様々な国の文化に触れることができる貴重な機会となりました。

<評価のポイント!>

それぞれが楽しみながら理解を深め合うなど、相互作用が生まれている点が評価されました。今後の更なる発展が期待されます。



Y(よつかいどう)・Y(よしおか)・NOWSON(今どきの農村)

～地球にやさしい体験型農家生活のすゝめ～

- ◆Y・Y・NOWSON ◆よつグルメ研究会 ◆四街道自然農塾 ◆一村のアトリエ ◆東京情報大学プロジェクト四街道 ◆四街道市

●まちにいながら田舎生活を体験できる場づくり

四街道市吉岡地区には緑豊かな千葉の原風景が広がっていますが、近年は農業従事者の高齢化による耕作放棄地の増加や古村の伝統文化行事の消滅危機等が課題となっていました。そのような中、市民活動団体や行政、大学等が連携し、吉岡地区の原風景と伝統文化を守る活動を通して、賑わいのある農村づくりを行う「Y・Y・NOWSON」事業が始まりました。

●4つのコラボが生み出すY・Y・NOWSON

Y・Y・NOWSON事業では①日本画家田村一村ゆかりの家「一村のアトリエ」を中心に文化芸術の発信を行う「伝統・芸術」の継承、②「よつグルメ研究会」と連携し、地元食や自然の恵みを活かした料理づくりを行う「食」の喜びの提供、③四街道自然農塾と協力し、休耕地を活用した体験型農家生活等を行う「農」体験の実施、④東京情報大学の教授陣と連携して史跡巡りや里山ウォーキング等を実施し、四街道の魅力を引き出す「学び」の繋がりとの4つのコラボレーションにより成り立っており、幅広い層、市域を越えた人々の参加を実現しています。

Y・Y・NOWSON事業を通し、拠点を整備したことで、気軽に住民等が立ち寄れる場が生まれてだけでなく、吉岡地区を中心とした様々な取組によって連携団体との間での新たなネットワークづくりにも繋がっています。

<評価のポイント!>

自宅を開放して地域の拠点としている点や、農家生活体験や里山ウォーキングなどを行い、地域での繋がりを作り伝統や自然の恵みを再認識しながら地域住民や大学などが連携をしている点が評価されました。



平成28年度ちばコラボ大賞 応募事例

※惜しくも受賞を逃しましたが、多様な連携事例をご紹介します

地域介護に貢献できる人材育成を目指した、 高校在学中の介護資格取得研修

市民活動団体と学校が連携し、高校生が介護資格（介護職員初任者研修）を在学中に取得できるよう実習や研修を行いました。資格取得や就職等を通じ、介護福祉人材の育成や社会貢献に繋がっています。



流山市

オール千葉! 地域密着社会貢献型ワークショップ

子どもたちが、間伐材について考えるワークショップを開催しました。また、間伐材商品が作られている福祉作業所を見学して、利用者と交流しました。子どもたちの学びだけでなく作業所の利用者の意欲向上にも繋がっています。



船橋市・他

フェアトレードフェスタちば

市民活動団体や企業・大学が連携し、フェアトレード品の展示販売紹介や世界を身近に感じるステージ発表等を行っています。国際的な視野を持った人々による、豊かな地域社会づくりに繋がっています。



千葉市

ひよしロード環境美化事業

日吉台地区のメイン通りのイメージアップのために結成された「ひよしグリーンロード再生会」を中心に歩道上の花壇整備や街路樹木の点検・清掃活動などを行っています。行政や地域の連合体・商店会と連携を図ることにより地域全体の取組に発展しています。



富里市

「支援の必要な人の視点を入れた防災・避難所 ノート」の普及と出前講座開催

高齢・障害者、外国人や女性など、様々な視点を取り入れたノートを作成しました。各地域の市民活動団体等と連携して、地域版を広めながらノートを活用した防災講座を開催しています。支援の必要な人をみんなで支える環境の整備に繋がっています。



千葉市・他



NPO案内犬「PONちゃん」

スケジュール

6月～ 8月／連携事例の募集
9月～10月／事務局による一次審査
10月～11月／審査委員による二次審査
12月／表彰式・事例発表会

第6回 ちばコラボ大賞 表彰事例紹介リーフレット

平成29年3月 編集・発行

千葉県環境生活部県民生活・文化課
〒260-8667千葉県千葉市中央区市場町1-1
TEL 043-223-4133/FAX 043-221-5858
Email:npo-vo@mz.pref.chiba.lg.jp

千葉県ホームページ
「ちばコラボ大賞」

その他、詳細はホームページをご覧ください。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kkbunka/collabo/index.html>